



HIV♥AIDSについて 話したことがありますか

●改訂版●



「一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶ」

コリントの信徒への手紙 1 12・26

カトリック中央協議会 HIV/AIDSデスク

はじめに

よく耳にするけれども自分とは関係のない遠い存在。“HIV/AIDS”をそんなふうには思っていませんか。

国連の場では、2010年までにすべての人が治療を受けられるように、さらに2015年までにはそのまん延を阻止することが合意されたのですが、達成にはほど遠いのが実情です。世界では現在、約3,670万人が感染していると報告されています。またHIV感染が原因で亡くなる人は、110万人、毎日約3,000人以上です（2015年）。

カトリック教会は世界各地でHIV/AIDSに苦しむ多くの人に寄り添い、共に歩む努力を続けてきました。2010年に世界で5,000を超えるカトリック病院や18,000を超えるカトリック診療所がこの病気に取り組み、それは世界における取り組みの25%にあたると言われます。ローマ教皇を始めバチカンの関係者も、しばしば国際会議の場などで、特に母親と子どもたちを救うために、教会の取り組みを強化することを表明してきました。“HIV/AIDS”は教会が真摯に取り組む生命の問題の一つです。

日本では、HIV/AIDSの総数は諸外国と比べ少ないものの、10年前と比較してHIV/AIDS累積報告数は2.4倍に増加しています。このような危機感から今回、改訂版の小冊子を発行することになりました。感染の可能性は誰にでもあることや、感染は検査をしなければわからないことを忘れずに、一緒にこの病気に立ち向かっていきましょう。

菊地 功司教

改訂版の発行にあたって

2012年12月1日初版を発行してから、5年近くの年月が経ちました。とても好評でしたので、HIV/AIDSを取り巻く状況と基礎知識について加筆、役立つ情報を一部修正し、目次ページを加えて、この度、改訂版を発行いたします。

改定にあたり、関係者の皆さまのご指導を賜りましたこと、ここに改めて感謝申し上げます。

この冊子が皆さまの、HIV/AIDSについての理解を深め、隣人との関わりに生かしていただく一助となれば幸いです。

カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク

目次

HIV とエイズは違います	4
からだと心、愛	8
一人で苦しまないで	10
どんな人でも受け入れる教会	12
なぜ感染したのか、ではない	14
エイズと貧困	16
社会の中でキリストの弟子として生きることとは	18
HIV / AIDS に役立つ情報集	20
HIV/AIDS に関するアンケート調査結果	22

HIV とエイズは違います

HIV とは

HIV は、英語の「Human Immunodeficiency Virus」の頭文字をとったもので、ヒト免疫不全ウイルスのことです。

エイズとは

エイズ = AIDS は英語の「Acquired Immunodeficiency Syndrome」の頭文字をとったものです。日本語にすると「後天性免疫不全症候群」で、〈生まれた後にかかる〉〈免疫の働きが低下することにより生じる〉〈いろいろな症状の集まり〉という意味になります。エイズは HIV に感染することによって発症します。

HIV 感染とは

HIV に感染すると、免疫の仕組みの中心である白血球の一種、「ヘルパー T リンパ球 (CD4 陽性細胞)」が壊され、体を病気から守っている免疫力が低下します。

HIV 感染からエイズ発症まで

HIV に感染しても、すぐにエイズを発症するわけではありません。自覚症状がないまま数年が経過しますが、その間に免疫力は低下し、やがて「^{ひよりみ}日和見感染症」と呼ばれる、本来なら自分の力で抑えることのできる病気など様々な合併症が出て、エイズを発症するようになります。

治療薬・治療法は進歩しています

HIV 感染症の治療薬・治療法は飛躍的に進歩し、エイズの発症を予防し

たり遅らせたりすることができるようになりました。また、発症した場合も、日和見感染症などの合併症への治療をしたうえで、抗 HIV 薬によって免疫力を回復させる治療を行います。このことにより、エイズは HIV が増えるのを抑えながら付き合っていく慢性疾患としての面が大きくなっています。



どんなことで感染する？

HIV は感染している人の精液、膣分泌液、血液に多く含まれており、このほかに母乳にも含まれています。これらに含まれるウイルスが粘膜や傷口から体の中に入ることで感染が起こります。尿や唾液にも HIV は含まれていますが、非常に微量なので感染することはありません。

HIV の感染経路は次の3つです。

性行為による感染

性行為により、精液、膣分泌液が粘膜（性器や肛門、口腔などの粘膜）から、体の中に侵入することによって感染します。

注射針・タトゥー針・アートメイク針などの共用による感染

注射針の共用だけでなく、タトゥーやアートメイク用の針の共用によっても、感染します。

母子感染（母親から赤ちゃんへの感染）

母体が HIV に感染している場合、妊娠中に胎盤を通じて胎児に感染したり、出産時の出血等で新生児に感染したりする可能性が約 30% と言われています。

しかし、母子感染を予防する適切な対策（①妊娠中の服薬、②帝王切開、③授乳を避けるなど）をとれば、赤ちゃんへの感染率をほぼゼロ%に低下させることができます。

HIV 検査について

検査を受けるメリット

検査で感染していないことがわかれば、不安を解消できます。感染がわかった場合でも、治療を受けることで感染前と変わらない生活を続けることができます。また、感染が早くわかると、その後の体調管理もしやすくなります。

HIV 検査は、保健所、病院、クリニックなどで実施しています。

検査を受ける時期

HIV に感染しても、すぐには血液中に HIV 抗体が検出されません。検査で正確な結果を得るためには、感染の可能性があった機会から 3 か月以上経ってから受検する必要があります。

参考・引用文献：

< HIV/AIDS の基礎知識 > 公益財団法人エイズ予防財団（2015 年 10 月発行）

http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/pdf/h_kisochishiki.pdf

< たんぽぽ > 東京都福祉保健局（平成 29・2017 年 3 月発行）

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryoy/koho/kansen.files/tanpopo.pdf>

からだと心、愛

「神は言われた。『人が独りでいるのはよくない。彼に合う助ける者を造ろう』」
創世記 2・8

「二人はもはや別々ではなく、一体である」 マタイによる福音書 19・6

神は人間がお互いに支え合って生きていくように造られ、またそれによっていのちをつないでいくように定められました。その意味では人間の性も「互いに支え合う」方向性が与えられています。そんなわたしたちにとって、神から与えられた性は、わたしたちの日常、生涯そのもの、そして人が共に生きていく上で欠かせない大切なものなのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」

ヨハネによる福音書 3・16

「小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」

マタイによる福音書 18・4

神は人間を、そして一つひとつのいのちを、無条件にかけがえのないものとして愛しておられます。〈こういう人なら〉ではなく、どんな人間も無条件に、そして全く一方的に愛して下さるのです。それほどまでに神にとっては一つひとつのいのち、一人ひとりの人は大切です。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

ローマの信徒への手紙 12・15

神に愛されていること、そして必ず誰かに愛されていることを実感する時、わたしたちもまた、人と喜びや悲しみを分かち合うことができるのではないのでしょうか。特に苦しむ人、悲しみを抱える人、弱い立場におかれた人の存在に気付くことができるのだと思います。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」

マタイによる福音書 28・20

いつも、そしていつまでも共にいて下さるキリストを通して、神の愛に気付き、まわりの人に目を向けることができたらと思います。

愛を夢見るあなたへ
みんなあなたの味方だよ

一人で苦しまないで

「もはや、わたしはあなたがたを僕（しもべ）とは呼ばない。僕（しもべ）は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。」

ヨハネによる福音書 15・15

人間は、深く傷つき、深刻な悩みを持つと一人で抱えてしまいがちになります。そして、それを心の奥深くに隠してしまいます。ちょうど動物がけがをすると、人や他の動物が心配して近づいても、もっと深く傷つけられないかと警戒して、必死に隠すのと似ています。

一人で苦しみと悩みを抱え込んでいると、周囲に対して壁を作り、どんどん孤立してしまいます。孤独というのは、時々、深く心をむしばみ、その中から不安と恐怖が大きくなっていきます。怒りとうらみを持ったまま生きていくことは、自分にとっても、周りの人にとってもとても辛いことです。

でも、少し勇気を出して、自分の苦しみと悩みを他の人に話してみるといろいろなものが変わってきます。自分の話にじっと耳を傾け、痛みと苦しみを分かち合ってくれる人がいることが分かったら、生きていくのがすごく楽になってきます。

信頼できる人、自分の苦しみを分かち合ってくれる人、自分の痛みを秘密にしておいてくれる人、そんな人など、この世にはいないとっていて

も、実はちゃんと存在するのです。

人と心を分かち合うと、苦しみと痛みは和らげられ、心は癒されます。自分一人で重荷を負っているのではなく、心を分かち合ってくれる友はいるのです。話し始めると、閉めきって息が詰まりそうになっている心の中に、光が差し込み、新鮮な風が入ってくるでしょう。

大丈夫だよ
みんなと一緒に
乗り越えるから

どんな人でも受け入れる教会

「わたしの目にあなたは価（あたい）高く、貴く、わたしはあなたを愛し、あなたの身代わりとして人を与え、国々をあなたの魂の代わりとする。」

イザヤ書 43・4

教会は、建物ではありません。神さまに集められた人たちが集まる場所です。そこには、当然いろいろな人がいます。社会人、学生、子ども、大人、老人、赤ん坊、女の人、男の人。みんな神さまに集められた人たちです。社会で活躍している人も、病気の人も、障害をもっている人も、家事をしている人も、いろいろな人たちがいます。

そして、悩みや苦しみを抱えている人たちもいます。そして、人には言えないような心に傷を負っている人もいます。いろいろな人たちが、神さまの子どもとして、集められ、養われ、一緒に命を分かち合いながら生きていこうとしているところが教会です。

自分のような人間は、教会にはふさわしくないなどと思う必要はまったくありません。ありのままのあなたが、神さまの目には限りなく貴く、愛しいのです。

傷つき、悩みを抱えたありのままの自分が救われ、受け入れられるところが教会です。神さまの前ではどのような人も不完全で、傷を持ち、苦しみを抱えた一人の人間なのです。神さまの前ではどの人も平等であり、神

さまの養いと慰めが必要な人間であることに違いはありません。どうぞ、心を開いて安心して教会に来てください。ほんの少しの勇気があれば、道が開かれるはずですよ。

きっと誰かが、あなたの話や疑問に、友として静かに耳を傾けてくれることでしょう。



なぜ感染したのか、ではない

「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」

サムエル記上 16・7b

かつて日本では、薬害による被害者を “グッド・エイズ”、それ以外は自業自得で感染したのだから “バッド・エイズ” とし、薬害エイズの被害者のみに救援の手を差し伸べるという愚かな法案を一時、施行しました。

私たち人類は、HIV/AIDSのみならず、あらゆる事柄（年齢、性別、性的指向、人種、民族、言語、階級、宗教、障害など）に対して 意図的／無意識のうちに〈区別〉をしてしまいがちです。それが〈区別〉にとどまっているうちは、そう大きな問題に発展することはあまりないのですが、多くの場合は〈差別〉に発展してきた例をいくつも経験しました。

差別の背景には、人種や宗教への態度、ジェンダー（社会的・文化的な性のありよう）の力関係、セクシュアリティへの態度、価値観の異なるグループへの見方などの文化・制度・慣習・社会的構造があります。

「なぜ感染したのか？」この言葉にどんな重要な意味があるのでしょうか？

時にはこの言葉が相手を責め立て、病気と闘う意欲を奪ってしまうのではないのでしょうか？ 病気やウイルスは人を選びません。区別し差別するのは、人の心ではないのでしょうか？

病気に対する無知、ストレス、不安、パニックなどが偏見・差別を生みます。

HIV/AIDSについて学び、理解を深めること、感染経路で区別・差別をせず、〈病を得た隣人〉として寄り添うことが今、私たちに求められています。



エイズと貧困

「わたしはあなたに命じる。この国に住む同胞のうち、生活に苦しむ貧しい者に手を大きく開きなさい。」

申命記 15・11

1日1ドル25セント未満で暮らす人が全世界で8億人以上いると言われています（SDGs 2015）。これは毎日生きていくのがやっと、といった状態で暮らしていることを意味しています。貧困は子どもたちから住居・栄養・養育・教育の機会を奪い、栄養失調や病気で5歳までに命を落としてしまう子どもは先進国に比べ20倍にも上ります。

またこれらの国々では多くの働き盛りの人々がHIV/AIDSで命を落とし、平均寿命や生産性がエイズ出現以前よりも低下してしまいました。

父親や母親をエイズでなくした子どもたちの多くは親戚に引き取られて育ちますが、引き取られた先の家族も生活苦のため、差別や、精神的・肉体的な虐待を受けて育つ子どももいて、エイズ孤児を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。

このように、エイズは一つの感染症にとどまらず、社会・経済に大きな影響を与えるようになってきました。

アフリカだけの問題ではなく、アジアやラテンアメリカ諸国においても、また、先進国の中でも都市部の貧困地帯などにHIV感染者が集中して見られ、共通した問題を抱えています。

近年、先進国の経済の陰りにより援助金が減少し、エイズ治療薬がだんだんと配布困難になってきました。エイズ治療薬は自費で購入するには高価であり、また継続して服用しないと効果がありません。薬を中断して、再び薬を使用し始めると、今までの薬が効かなくなり、もっと高く強い薬が必要となります。少ない支援金の中では今、治療をしている人が優先で、新しい患者にはエイズ治療薬を開始することは難しくなります。

また、資金援助されていて薬が無料だと言われても、日々生きていくのがやっとの人々にとって、病院又は診療所に通う車代さえも払えません。生活するためのお金以外の余分なお金は払えないからです。

このように貧困に加えてHIV/AIDSに感染すると、ますます生活が苦しくなっていきますが、貧困に苦しむ人々の自立のための様々なサポートをする市民レベルの団体も多くの国で増加しつつあります。

こういった状況の中で、私たちができることは何でしょうか。地球上でHIV/AIDSに苦しみ、貧困の中で生活している人たちのことを忘れずに、彼らのために祈り、彼らのために出来ることは何かをいつも考えていきたいと思います。

社会の中でキリストの弟子として生きることとは

「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、とりわけ、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事がらで、キリストの弟子たちの心の中に反響を呼び起さないようなものは一つもない」。第二バチカン公会議は『現代世界憲章』の冒頭で、このように教会のあるべき姿を宣言しました。

これはわたしたちが現代社会の中でキリストの弟子として生きるための示唆を与えてくれています。社会問題というとい自分には関係のないことのように思いがちですが、実はわたしたちにとって大切な一人ひとりの人間の上に起こっていることなのです。体の一部が痛めば体全体が痛むように、社会の中で傷つき苦しむ人の痛みをわたしたちは共にしているでしょうか。

イエスのように生きること、それがイエス・キリストに従う者として、わたしたちに求められています。

イエスは当時の社会の中で、弱い立場にいた人、疎外された人、差別された人に優先的に関わりました。それを明示しているのがイエスの奇跡です。イエスは重い皮膚病の人、異邦人の百人隊長のしもべ、ペトロの姑のいやしの奇跡をまず最初にされたのです。彼らは当時の社会で差別されている人たちでした。

イエスの教えもまた同じです。「善いサマリア人」のたとえ話は、道ば

たに傷つき倒れていた人にとって、隣人となってくれた人は、祭司でもなく、レビ人でもなく、当時ユダヤ人と仲のよくなかったサマリア人でした。そしてイエスは「あなたも同じようにしなさい」（ルカによる福音書 10・37）と教えられたのです。今、この現実社会に生きているわたしたちは、誰から「あなたはわたしの隣人になってくれた」と言われるでしょうか？

わたしたちは主の祈りの中で、神の国が来ますようにと祈りますが、イエスは「実に、神の国はあなたたちの間にある」（ルカによる福音書 17・20）と言われます。人と人との関わりの中、つまりわたしたちの間に神の愛が現れたところ、わたしたちが神の愛を生きたところに「神の国」は来ているのです。

イエスはわたしたちが社会の中で差別を受け、疎外されている人に真に寄り添って生き、一人ひとりが大切にされる社会、神の国を築くようにと求めています。

それを受けて、イエス・キリストに従うわたしたちは、人間としての尊厳が大切にされる社会、たとえ HIV に感染し AIDS を発症したとしても、共にすべての人が人間らしく生きられる社会をつくるために働きたいと願っているのです。

HIV / AIDS に役立つ情報集

■ HIV 検査を受けるには

HIV 検査は全国のほとんどの保健所や自治体の特設検査施設（東京都南新宿検査・相談室など）で無料・匿名で受けることができます。自分の居住地以外の保健所でも検査は受けられます。また、病院、クリニックによっては有料で検査サービスを提供しています。HIV 検査には、1 週間後に結果がでる精度の高い【通常検査】と、1 時間程度で結果のでる【即日検査】があります。検査は基本的に、可能性のある行為から 3 ヶ月を経過してから受けると確実な結果を知ることができます。HIV 検査を受けられる場所は、下記 web サイト、エイズ電話相談、お近くの保健所などでお問い合わせください。

HIV 検査、相談マップ <http://www.hivkensa.com/>

■ 電話で相談をするには

不安や疑問があるときには、電話相談の利用をおすすめします。検査を受けるかどうか、感染の予防の方法などについて、自分の誤解に気づき、気持ちの整理に役立ちます。相談は無料、匿名で受けることができます。

〈不安や疑問に関する電話相談〉

エイズ予防財団 電話相談

月～金曜日（年末年始・祝日を除く）10:00 - 13:00 14:00 - 17:00

フリーダイヤル 0120-177-812（携帯からは 03-5259-1815）

東京都エイズ電話相談 03-3292-9090

月～金曜日 9:00 - 21:00

土・日曜日・祝日 14:00 - 17:00

〈陽性者、パートナー、家族のための相談〉

ふれいす東京 ポジティブライン（厚生労働省委託事業）

0120-02-8341 月～土曜日 13:00 - 19:00

木曜日 15:00 - 18:00 HIV 陽性者の相談員対応

■ 情報をインターネットなどで探そう

API-NET エイズ予防情報ネット

<http://api-net.jfap.or.jp/index.html>

エイズに関する予防・啓発情報、NGO 活動などの情報を提供することにより、エイズ予防の一層の支援を図ることを目的に、財団法人エイズ予防財団が運営しているサイト。小冊子やポスターもあるので詳細はお問い合わせください。03-5259-1811

HIV マップ <http://www.hiv-map.net/>

HIV/エイズの総合情報サイト。ゲイ・バイセクシュアル男性をはじめ、全ての人にすぐに役立つ予防・検査・相談・支援の窓口や基礎知識など。

THINK ABOUT AIDS <http://www.thinkaboutaids.jp/>

HIV 陽性者やパートナー、家族による手記を著名人が朗読している。

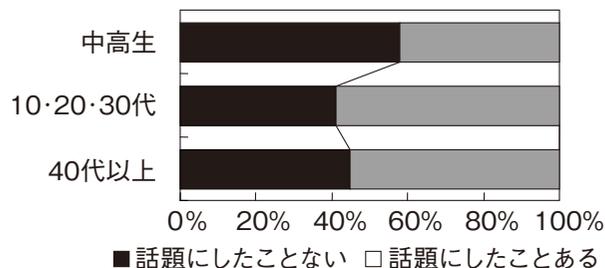
HIV/AIDSに関するアンケート調査結果

実施：2012年1月—6月

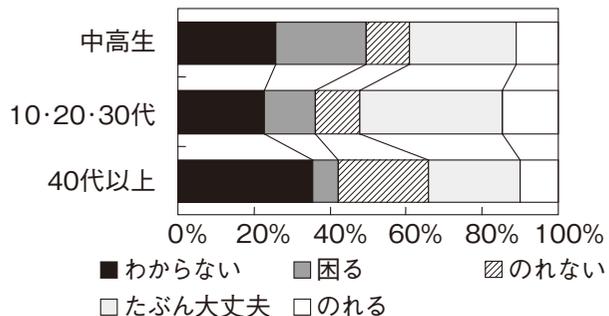
内訳：15教区（仙台教区を除く）63小教区の信徒、修道者、司祭

カトリック学校19校の生徒・学生・教職員 合計 3,345人

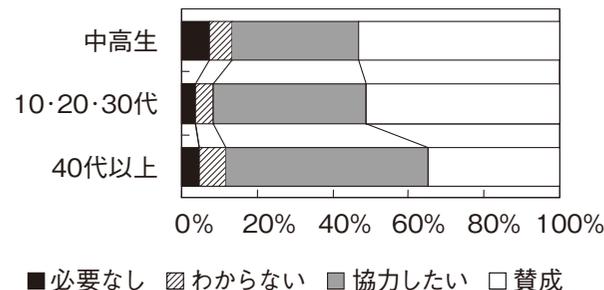
質問1. HIV/AIDSについて話したことがありますか。



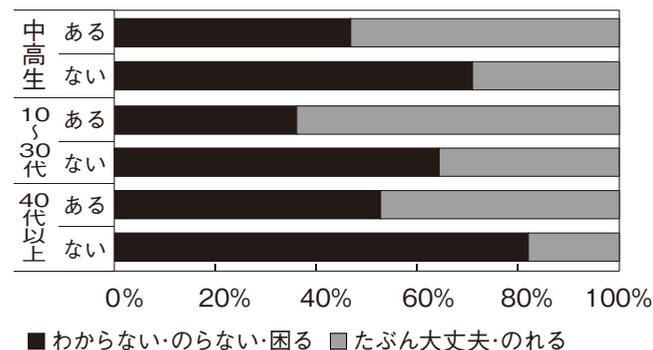
質問2. HIV/AIDSについて相談されたら、相談にのれますか。



質問3. 教会でHIV感染者やエイズ患者の支援活動をするのをどう思いますか。



質問1の結果より、中高生は、他の年代よりHIV/AIDSについて話題にしたことがないという回答が多く、より一層の啓発活動が大切であることがわかりました。また、HIV/AIDSの話をしたことがある人は、どのグループでも有意に相談にのれると肯定的に回答しており（下グラフ）、HIV/AIDSに関心がある人ほど悩む友人を支えられることが明らかになりました。* $p < 0.01$



※解析：x2乗検定

発行日 2012年12月1日 初版第1刷発行
 2013年12月1日 初版第2刷発行
 2017年7月22日 改訂版第1刷発行
 2017年11月21日 改訂版第2刷発行

編 集 HIV/AIDS デスク
監修者 菊地 功司教
発 行 日本カトリック司教協議会
 社会福音化推進部
 〒 135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10
 TEL 03-5632-4413 FAX 03-5632-7920
 E-mail hiv aids@cbcj.catholic.jp
 URL <http://www.cath-aids-desk.jp>

表紙と本文の絵と書 啓発デザイン応募作品から



レッドリボンは1990年頃から
ニューヨークで始まった運動で、今では
UNAIDS (国連共同エイズ計画)をはじめ、
全世界で使われているシンボルです。
HIV/AIDSで亡くなった方への追悼、エイズ
で苦しむ人々への理解と支援、これ以上
HIV/AIDSに感染する人が増えないよう啓発
を意識していることの表明としてたくさん
の人が身につけています。

日本のカトリックHIV/AIDSデスクは、十字架とリボン
を組み合わせたオリジナルのレッドリボンを2007年から
使用しています。一人でも多くの方がレッドリボンをつ
けて、知識を広めてくださることを希望します。